令和５年度　第１回　織田廣喜美術館運営協議会　会議録

１．会 議 の 名 称　令和５年度　第１回　織田廣喜美術館運営協議会
２．開　催　日　時　令和５年７月２４日（月）１３：３０～
３．開　催　場　所　織田廣喜美術館　市民アトリエ
４．公開非公開の別　公開
５．出　　席　　者　※敬称略
（１）出席委員
　　緒方　　泉（会長）
　　坂本 留里子（副会長）
　　三木　一司
　　坂田　続穂
　　桒野　麻里
（２）欠席委員
　　丸山　桃子
（３）教育委員会
　　教育長　木本　寛昭
　　生涯学習課長（館長）末永　康洋
　　課長補佐　上野　智裕
　　図書・美術館係主査　藤原　千晶
　　図書・美術館係主査　有江　俊哉
（４）指定管理者　㈱図書館流通センター
　　統括責任者　下田　富美子
　　サブチーフ　木村　亜沙子

６．傍　聴　人　数　０人
７．議題及び審議の内容
【議題】
（１）令和４年度事業実績について
（２）令和５年度事業計画及び進捗について
（３）織田廣喜美術館入館者推移について
（４）図書館・美術館メールエクスプレス事業について

（５）その他

【提出資料】

（１）令和４年度事業報告

（２）アンケート集計結果

（３）令和５年度事業報告書

（４）年間入館者推移

（５）図書館・美術館メールエクスプレス事業

【議題及び審議の内容】

（１）令和４年度事業実績について

事務局による説明。それに対する質疑応答。

≪主な質問・意見等≫

委員コロナ禍が終わり、入館者が戻ってきたと感じた。美術館の雰囲気も変わってきた。今後どのようになって行くのが楽しみである。

委員入館者がコロナ前の水準に戻ってきているというケースは珍しい。福岡市内の美術館や博物館では、なかなかコロナ禍前の水準に戻っていないと聞く。それ故に、織田廣喜美術館での入館者数が戻ってきているということは評価されてよい。

委員令和４年は厳しかった時期を交えての集客活動であったが、見学した「ノンタン絵本の世界展」は良い取り組みであった。先ほどの説明であった「県展筑豊展」の広報を葉書にしたら効果的であったとのことだが、それは織田廣喜美術館独自の取組か？もしくは巡回展全体での取り組みか？

指定管理者織田廣喜美術館独自の取組である。葉書サイズであれば気軽に渡せて、携行しやすいかと考えた。

委員今年度も葉書サイズでの広報を行うのか？また他の展覧会でも同様の広報が有りうるのか？

指定管理者今年度も県展では、昨年同様に葉書も作成する。

委員アンケートの結果によれば、ＳＮＳが来館のきっかけとして２番目に多いようだが、具体的にどのＳＮＳが主要なのか？

指定管理者主にインスタグラム、フェイスブック、ツイッターを活用し、それらから公式ホームページへ誘導している。

委員いずれかのＳＮＳを見て、来館行動になっているということか。

指定管理者異なる世代が異なるＳＮＳを使用しており、美術館の新聞への寄稿においても、展覧会の会期に合わせた内容の執筆を行っている。

委員嘉麻市の公式 LINE で美術館情報を提供されておりアイデアだと思う。新聞記事にも掲載されていた。資料から高齢者の減免対象者の入館者数が多いが、若い世代にも訪れてほしい。

会長年齢層を把握できるデータはあるか？

指定管理者アンケートではデータが得られるが、全ての入館者に対しては料金区分に基づくデータしかない。入館料の減免対象として、65 歳以上、学校団体が多く利用している。減免制度は企画展にも適用されている。

会長「ノンタン絵本の世界展」では有料入館と減免入館の比率が 1 対 1 になっているが、他の展覧会では減免入館者が多い。お金を支払ってでも訪れたい展覧会を企画すれば、有料入館者数と消費が増えると考えられる。貸館についても、2 月に書初めの展示や小学生児童画展などで来館者が増加しており、この時期に子ども向けの展示を行うアイデアは非常に効果的である。美術館から団体などへ、団体へのデータ提供や誘致も検討すべきである。通常、美術館は 1 月と 2 月が閑散期で、7 月から 9 月が集客期だが、織田廣喜美術館は閑散期にも集客できる良い例である。アンケートで「気になる展覧会が開催されていたから」という動機が挙げられているが、今後はどの展覧会が注目されるかを分析することが重要である。また、近くを通りかかったからとの回答があるが、具体的に道の駅にポスター、織田廣喜美術館の看板などの回答にも注目し、広報戦略を見直し、そのような回答が得られるようなアンケートにするとよい。多くのアンケートを収集することで、詳細な情報を得ることができるだろう。

（２）令和５年度事業計画及び進捗について

事務局による説明。それに対する質疑応答。

≪主な質問・意見等≫

会長夏の展覧会について説明してほしい。

指定管理者 7 月 21 日より 9 月 18 日まで昆虫写真家の栗林慧の写真展を開催している。22 日土曜日の夜には会場で栗林さんのトークショーを行い、撮影エピソードなど、作品を見ながらお話しいただいた。23 日日曜日には栗林さんを講師に子ども向けのワークショップを行い、子どもたちが美術

館横の公園で虫の写真を撮影し、自分で一番いいと思った写真の上映会を行い、栗林さんがコメントをするというものであった。

会長 6 月までの入館者データを見たときに、昨年度 4 月が 792 人、5 月が 358 人、6 月が 240 人となっているが、本年度は前年度と比較してどのような数値になっているか？

指定管理者 今回数値を持ってきていないので回答できない。

委員 2 学期以降になるが学校で美術館を活用させていただく予定である。また開催される「栗林慧の写真展」は夏休み期間中であるから子どもたちも楽しみにしていると思う。

委員 企画展示室の利用がない時期に、「市民作品展」を企画したことは評価できる。

会長 市民が参画できるミュージアムになっていくことが重要である。市民が、「私が美術館を支えている」という意識を持ってもらう。今回の市民作品展の出展者が 200 人の入館者を連れてきてくれたことが素晴らしい。表現者が自身の作品を公開できる場を提供するということを言い続けたほうが良い。もちろん、このような機会を提供し続けることは大切だが、展示室の利用について年間スケジュールを考慮する必要がある。利用できる期間を周知しておくと、市民も作品制作の計画や心構えができる。市民展が軌道に乗ると、公募展のスケジュールなども把握して、市民展の期間を計画してあげると、市民も目標や計画が計画を立てやすい。

指定管理者 5 月、6 月は例年展示室 5（企画展示室）が空いているので、市民展、田川清美写真展を開催した。夏休みの展覧会以降は展示室の予定が埋まってしまうが、利用者から前半では制作が間に合わないということで空いていた。市民展は、同時開催であったカリグラフィーの展覧会が自分たちだけでは展示室を埋められないとのことで、半分を活用するために同時開催を企画した。結果いい反応があったので継続していきたい。

委員 市民展、田川清美写真展の時には残念ながら観に来ることができなかったが、観に行かれた方から、カリグラフィーの会場と市民展が一つの会場で混ざったような感じであったので、明確に分割されたほうがよかったとの感想を聞いたことが気になっている。田川清美写真展はすごく良い展示であったとの感想を聞いている。

指定管理者 パーティションで分割はしていたが、二つの会場が構造上往来

できたのでそのように感じられたかもしれない。

会長異なる二つの展示室のコンセプトや空気感が伝わりにくかったのかもしれない。来場者に展示室の違いを伝える方法を検討し、改善点を次年度に活かしてほしい。

委員写真展を開催する際に写真を募集してはどうか。これにより展覧会の可能性も広がるかもしれない。

会長市民の表現者の心理をくすぐる。これにより美術館が彼らの居場所となり、新たな来場者も呼び込むことができるだろう。市民の参加を奨励し、美術館の魅力を広める流れができてくる。

（３）織田廣喜美術館入館者推移について

事務局による説明。それに対する質疑応答。

≪主な質問・意見等≫

会長このデータでみると、コロナ禍を終えて早い回復をしていることが読み取れる。2015 年の昆虫展開催時と今回の昆虫展開催年度とは比較できるかもしれない。ヒットした展覧会を再度やることは効果がある。

教育委員会 2021 年の中原淳一展の時にまん延防止措置が発令され、会期の前半を休館という措置をとった。会期が半分となったが本来ならば、単純計算で入館者も倍になった可能性がある。

（４）図書館・美術館メールエクスプレス事業について 3

指定管理者より説明。それに対する質疑応答。

≪主な質問・意見等≫

会長データを学校へ送信する際、データにパスワードを設定する予定か？

教育委員会確認しておく。（学校教育課に確認し、パスワードの付与は個人情報を含まなければ不要であるとのことであった）

会長どんどんデジタル化が進んでいくので、様々な分野で省略化ができるようになっていくだろう。タブレットは生徒、児童は自宅へ持ち帰りができているのか？

委員各学校、学年で異なっている。

委員従来の紙媒体での生徒、児童への配布は枚数も多く大変で、デジタル化は業務量の軽減で助かる。公募などの通知も沢山届くが、情報共有が早

ければ、教育課程に組み込むことができるが、情報が遅れると発表や取り組みができないので、情報提供が早いほど有効である。

委員ウォークラリーなどのイベントのポイントに美術館が組み込まれていくといい。美術館の外観や周辺が様々なイベントのコースやポイントとなることで、さまざまな人が立ち寄る機会を提供できたら良いと思う。

会長公園も気づきにくく、訪問者が美術館から回り込めるような工夫を考える価値がある。

委員栗林慧写真展の会期中に計画されているイベントは何か。

指定管理者イベントは前半に集中させたが、昆虫を公園で採取し、碓井図書館でその生態を調べる「アートラボ」を計画している。

会長「アートラボ」で昆虫を採ったら、その場で図書館へ行き調べるという学習習慣ができる。そうして調べ学習をすることで図書館にはこれだけすごい蔵書があることに気づく。美術館と図書館が単独でははく、連携することで学びが生まれてくる。その仕掛けを社会教育施設である美術館、図書館がつくり、子どもたちの学びを応援することで、２学期からの学習の中で、「図書館へ行って調べてみよう」という言葉が出てくるといいと思う。嘉麻市は夏休みの学校と美術館、図書館との連携ができる。

委員宿題や自由研究を絡めて、子どもたちが美術館や図書館を活用する場になれたらいい。

会長関連性が大切である。美術館だけではなく図書館も同時に運営しているというのが指定管理者の強みであるから、その強みを生かして美術館と図書館の関連性をもった企画を考えていってくれると、市民や子どもたちが、美術館と図書館が生み出した関連性に合わせられる。そうなると社会教育施設の多様性をおのずと感じて、美術館を日常的に使ってもいいのかなと思えるようになるといい。

（５）その他

会長より、8 月５日に九州産業大学が織田廣喜美術館で行う「博物館浴」のプログラムについて説明。

閉会

この会議録は、緒方会長に確認していただきました。